

パリ DAC 通信

(援助量、援助効果向上、政策一貫性への取組の必要性を再確認～OECD の閣僚会合)

OECD の閣僚会合は、7年ぶりに発出した結論文書において、援助量、援助効果向上、政策一貫性への取組の必要性を再確認するとともに、DAC ハイレベル会合アクションプランを歓迎しました。

閣僚会合のテーマは、「経済危機とその後、より強く、クリーンで、公平な世界経済の構築」
今年の OECD の閣僚会合では、経済・金融危機への対応に加え、危機克服後の世界経済のあり方について世界的に関心が高まる中、1) OECD の戦略的方向性、2) 回復への道、3) 世界的な政策協力における OECD の役割、4) グリーン成長、及び 5) 貿易・投資のための市場開放維持、という 5 つの議題について議論を行いました。

「回復への道」において、最貧国への影響と支援の必要性を確認
「回復への道」のセッションにおいて、世界経済は危機的状況から脱しつつあるが、引き続き注意が必要であること、また出口戦略の準備を始める必要性等について議論され、この中で、グローバル化と自由化の結果、途上国のリスクエクスポージャーが高まる結果となるなど、途上国、特に最貧国への危機の影響が懸念され、支援の必要性が確認されました。

発展途上国が受ける影響を緩和する努力を
閣僚会合の結論文書では、「発展途上国の経済が脆弱なものから景気後退に対してより強い回復力を持つものとなることが、世界的な繁栄と安定のためには不可欠であり、またこれが最終的にミレニアム開発目標(MDGs)の達成につながる」としています。このため、「現在の景気後退が世界の貧困層と弱者層に与える影響を緩和し、発展途上国も世界経済の回復に参加できるような努力を進めることが重要である」としています。

援助の量、援助効果向上、開発に対する政策一貫性を再確認
さらに、結論文書では、「援助の量及び援助効果向上、開発に対する政策一貫性及び開発金融に関する我々の公約とコミットメントを再確認する。この関連で、DAC ハイレベル会合により承認されたアクションプランを歓迎する。また、OECD が発展途上国と共に当該作業を継続するよう促す」として、DAC の取組について言及しています。

OECD 閣僚会合の詳細や結論文書についてはこちら

(http://www.oecd.org/document/63/0,3343,en_2649_201185_43164671_1_1_1_1,00.html)をご覧ください。